

久しぶりの且桜会

第 51 回且桜会が令和 2 年 11 月 10 日に開催されました。当初 8 月に予定していた例会を新型コロナの感染増を受けて直前になって延期し、11 月となったものです。2 月以来半年以上間を開けてようやくの実現です。

参加者はいつもより少なく 15 名。コロナ感染防止に配慮して椅子の間隔を開けて、また、席を立っての酒を注ぐのを避け、自席で大声を出さずに静かに飲食と会話を楽しむこととしました。



甲斐幸丈 会長（大 21）の挨拶に続き、今回の講演は高井道晴さん（大 21）による「経済学部 100 年の歴史と記念式典」でした。学者を育てる帝国大学とは別にビジネスエリートの育成を目指して定められた高等商業学校制度により大正 11 年に大分高等商業学校が誕生したこと、戦時下に高商が工業を専攻する工業専門学校とビジネス専攻の商業専門学校に別れたときに大分高商が大分経専になったことなど、講師のわかりやすい説明で、一同、経済学部の歴史に理解を深めました。在学中も卒業後も、なかなか母校の歴史に触れる機会はありません。また現在大分大学に 6 つの学部があることなど、出席者の大半が知りませんでした。

懇親会は、津行孝充副会長の音頭による乾杯で始まり、しばらく静かな懇親が続いた後、100 周年記念募金推進について協議しました。大分支部の募金が目標の 40%前後に低迷している現状を踏まえ、参加者全員が同期の未募金者に働きかけることになりました。



その後、4 人の参加者が近況についてスピーチされました。

阿部通正さん（大 26）：この春、県外の企業を退職し、大分に帰って現在は

分大学地域連携プラットフォーム推進機構コーディネーターとして活躍されています。

安東雅範さん (大 21)：春の叙勲で瑞宝双光章を受章されました。現在は戸次で農業を営んでいます。

加嶋弘さん (大 22)：この春に長く務めた大分支部副支部長を引き、ご自分と奥様の 90 代の両親 3 名のお世話に追われています。

宮川喜久雄さん (大 26)：別府支部長に就任しました。別府支部は募金目標の 100% を達成した地域支部の優等生です。仕事に、趣味に、そして支部の仕事にまい進しています。

4 人のスピーチが終わってしばらくまた懇談、会の締めは**下森啓司さん (大 30)** でした。ラグビーのこと、募金のことなどを紹介された後、一本締めで会はお開きとなりました。

静かな懇親会で、飲みながら食べながらのスピーチや協議が進みました。飲んで騒ぐことなく、静かに話し聞く、こういう例会もいいものです。